

# 市長と語ろう地域懇談会 記録

【日 時】平成24年5月2日（水）午後6時30分～8時30分

【会 場】布礼別集落センター

【対象地域】布礼別・富丘

【出席者】22人

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
経済部	<p>中心市街地については、昭和50年ごろ、農協青年部と商工青年部と懇談会をしたことがあります。そのときは、まだ街の中がまだ活性化していた頃で、車社会が進み、そのときに言ったのは、商店街の中に、車を停めるスペースが無いとみんな離れていくと。現在は、郊外に駐車場の大きなところが、どんどんできて街の中が寂れる。それは昭和50年頃に言っていて、今商工会のその人たちは幹部になっています。一つも話を聞いていないで、今になって大騒ぎしている。人口減だとか出生率が少ないのは、ここだけの話ではなく全国的な話です。それで、多分渡りに船の段階で活性化していく。マルシェにしては成功の例だと思います。その継続として、その外側の区域に新たにしようとするのは良いが、実際に住んでいる商工業者の方たちが、人の案ではなく、自分たちがどれだけ努力するかということ、まず先にしないとダメだと思います。この市外地の農村部のみんなの前で話しても、現地の人たちがどういうプランを立てていくかということは何もしていないのであれば、逆に応援もできない。買い物に行くとなれば結局、駐車場があり、物の揃っているところへ行きます。街の中に来てくれと言って、空き地があってもフェンスを張って車も停められない、道路に置けば駐車違反になる。そういうことを考えたら、まず街の人たちが提案になるかもしれないけれど、ちょっとした空き地でも車を停めるスペースをみんなで協力して「ぜひとも来てください、車も置けますよ」というのでなけれ</p>	<p>【市長】大変貴重なご意見を拝聴しました。富良野の状況は、2つに大きく分けると、商圈商業調査の結果70%は、将来商売をする意思が薄いということが結果に出ました。そういう状況を考えた時に、一つはこの富良野市の市街地をどうやって、これから存続をさせていくかということが大事な要件になると行政は捉えています。そういう状況の中で、商店街の人の努力が足りないということは充分承知しています。そこで今、本通りだとか新相生通の人たちは、今真剣になってどうしたら自分たちがこれから生き残っていける状況づくりができるのか、たくさんのお客さんたちがどの程度これから来てもらえるような状況づくりをするのかといったことを昨年から話し合いをもっていたいただいています。そして、行政と共々、協働でまちづくりを進めていくという趣旨に則って、今お話し合いをさせていただいています。その中で、富良野市の中小企業振興策の見直しを行います。5月1日から、新聞でわかると思いますが、過日、説明会を行い、これから富良野に住んでみたい、商売したい方が富良野の市外合わせて20人ほどが来て申し込みをしていただく状況になりました。そうすると、新しい店舗ができる状況が生まれてきます。それから後継者のある方についても、店舗を改築して行うような状況が出てきました。今、少しずつでも市と商店街、個人が行うような形で、昔の復活ができるような状況づくりをする。駅前から点から線に結び付けていくような市街地の構成を作っていきたいとい</p>

ば、そんなところに誰が行きますか。まず、そういうことを考えていかないと、活性化やこれからしなければならないと言っても、もう時代遅れになりつつあります。街の人が努力をする姿勢をなぜ見せていないのか。こども園の話も、賛成、反対の方の意見で市のいろんなことをこれだけ騒がしている。やはり、市街地も同じことです。外側に物が出来て、人口も少ない、さっきの説明で駅裏はこれだけ人口増えましたと言っても、その人たちは街の中まで買い物行くかと言ったら、便利な安い、車の置けるところへ行っている。そういうことも考え合わせて、市街地をどういうものを持ってきて、魅力を増すということを行政が行うのではなく、街の人たちが真剣に考えているのかどうか。本通は、シャッターばかりです。店の開いているところが無いです。最近シャッターのところが何軒か壊したりボイラーが壊されたりしてあります。そういうのを見たら富良野は寂れていくまちと思わないですか。その地域に住んでいる街の周りの人たちも、こういうプランをどんどん提案しているのかわかりませんが、この機会にそこだけは聞きますけど、大きな空き地を構え、柵がされ、車も停めるところがない。例えば、三番館の隣に銀行あり、個人の所有地ですから、簡単にはいかないかもしれませんが、そういうこともちゃんと話し合っ、地域の人が行きやすい街っていう、この東4条だけじゃなくて、もっとしなければならないことがあると思いますが。

昔に戻らなくても、今の時代を先取りするような、例えば、富良野市街地の中で一回りしたら楽しいことあるという、例えば5条通、相生通、それから国道に出て南4丁目をひと周りしたら何か楽しいことがあるという何か発想を考えるべきです。

うのが行政の役割だと感じています。ですから、この第5次総合計画の中にも、そういう中心市街地の役割をどう作っていくかということも謳わせていただき、この基本計画を作らせていただいたという中身であります。ご指摘を受けた通り、商店街のみ皆さんの努力が足りません。農家の方々から比べたら数段に足りないということが言えると思います。それはなぜかと言ったら、老舗の商店街というのは、それぞれ昔貯めたお金を出さないで、少しずつ自分の代だけ生き残れば良いというものの考え方を持っている人。新しく後継者がいる方については、別な角度で富良野市内で行うような状況にはなっていないというのが現況です。それを変えていくような状況づくりをしようとしているのが今、行政の在り方です。今話された問題は、市の責任においてというよりも、市の役割をこれから市街地の人と50年代の状況作りには戻りませんが、それに代わるような状況づくりをしていくというのが、中心市街地の活性化の大きなねらいということで、ご理解いただければと思います。

【副市長】他の地域でも今と同じような言葉を言われています。みなさんが頑張っているが、買い物へ行っても買いやすい状況にはなっていないということで、街の中にいる商店を行っている方たちはもう少し考えてもらうべきだという提案もいただいています。それはそれとして、行政もともに行わなければならないということで、今頑張って中心街の活性化を行うということをご理解いただきたいと思います。

【市長】今、富良野のキーワードは絆です。へそとの絆。そういうことを念頭に置きながら、本通については、空き店舗は少ないですが、空き地が多くなりました。これを集積するような状況を作って、そして拠点、拠点に例えば、マルシェがあったら、こち

経済部

経済部

富良野に来て3年ですが、南の方に住んだことがなかったので、富良野に来て非常に街が明るいというか、活気があると非常に感じました。他の街と違って交流人口がとても多い街だと思います。この街づくりとか、こども園に関しては、情報不足なので発言はできませんが、感じたのは、そういう印象です。交流人口や街に訪れる観光客がもう200万人を超えているということで、今まで住んだ街と比べると、非常に観光を目玉にして、交流や観光に来る方たちを大事にしているという印象が非常に強くあります。

らの方にこれから3段階で作る計画があるので、そこには公園を作った形で駐車場を置ける状況づくりをする。本通については、へそにまつわるような状況で観光に来た方がそこへ必ず立ち寄っていただけるような状況づくりをしようということで、商店街の人も構想を練っているところです。お話しされたことについては、当然そうあるべきだと思っていますし、街の中に人が入ることは、賑わいを求めるということですから、お話しの内容については同感であります。これから、共同しながらそういう市の役割を果たしていくと思っていますので、貴重なお話しとして承りたいと思います。

【市長】これからは、やはり観光は農業がなかったら、富良野は観光にならないです。この山岳景観、森林景観、田園景観、これは農家の人が一生涯懸命頑張っていたから、これだけの自然が保たれていると理解しています。これらの状況を踏まえて、これからの農業と観光と、環境の3つを組み立てながら、富良野のこれからのまちづくりを進めていかなければならないという感じを強く持っています。農業があって観光があって、そして環境を良くしていかなければならないという3つのキーワードを持ちながらまちづくりを進めていくというのが富良野の場合、一番、そういう状況があるのではないかと認識をして進めていきます。その中で、農業でも国の政策的なものをいっても、個別所得方式という新しい方式を取られて、少し農家の方々の所得の安定的なものには大きくはしてないですが、具体的な施策が去年から本格的になりました。あらゆる状況の中で、所得の安定というものを農業所得については図っていくという前提に立つならば、今の状況でいくと、耕作集積しなければ農業がやれない農業になるのか、新規就農のみなさん方が入ってきて、2町ぐらいで将来食

経済部

マルシェの青果がありますが、地元の人をあそこで青果品を買うような状態のものは少ないという意見がとても多いです。外から来た人は、富良野の農産物だからって買っていきます。地元の方が来たら「あんなものを売っているのか」という感じがあります。富良野の特産品として、何でも良いから置けば良いということになったら、いずれマルシェの人気も落ちると思います。もうちょっと生鮮品にしても品物を吟味して、富良野だからこれだけのものがこんな安く買えるというものを、もうちょっとしていかないと、あそこで運営している人たちの問題ですが、そういう意見も考えていかないと。

べていけるような野菜づくりができるような状況にしていく、いろいろあると思います。

その中で今年は、少しかけ離れますけれども、富良野の農業計画があります。この農業計画の中に、今年から4つの視点ということで、人づくり、基盤づくり、システムづくり、安全安心づくりということで、この4つの形を推進する中で、今年から予算付けをしました。今年から積極的に進めていくというような状況がありますので、これらについてご質問が後ほど出てくれば、お答えをしながら進めていきたいと考えているところです。

【市長】この2年間過ぎて、特色のあるものが2、3あります。パンは、非常に地元で作っているパンとしては、好評を博しています。パンの状況というのは、非常にこれからまだ伸びていくとそういう感じが一つあります。マルシェで、非常にアイデアのある商品が大ヒットして、1日大体3000本くらい、去年、一昨年くらい売れています。1本300円で、1日100万くらいの収入を上げているという状況もあります。ですから、お菓子類についても、地元の産品を出しながら行っているというお店もあります。地元の人でも結構買っているものは買っています。ですから、多く買ってもらうのが良いのか、今の経営の内容の中で継続していくのが良いのか、大きくすることによって、それだけのリスクを被る場合もあります。それは行っている方の考え方です。いただくという状況づくりになるとそんな感じを強く持っています。今の状況の中では、先ほどお話しありましたが、他の地域よりは少なからず、富良野の経済圏の中では、少し明るい状況ではないかと思っています。それはよそから交流人口が富良野に入ってくる状況が他のところより多いということですから、それはそれでこれからもっと増やせる方法を考えて、交流人口の中から経済

<p>経済部</p>	<p>青果については答えがなかった。</p>	<p>効果をもっと出てくるような産品を作っていくとか、売り込んでいくとか、こういうことがこれから必要ではないかと感じています。</p> <p>【市長】それは答えられないです。青果については。どうして答えられないかという、品薄にするわけにいかないし、新しいものを行政が作り出すということは難しいですから、そういうことでお答えできないということで理解をいただきたいと思います。</p>
<p>経済部</p>	<p>マルシェの周囲の問題について、去年の状況をお聞きしたかったのですが。最盛期の観光トップシーズンに周辺を大型バスとかが狭い道に入ってきます。そういう状況を市はどのくらい把握していたのか。それと周囲の人たちの何か問題はなかったのかどうか。車が出られないとか車庫の前に車を置かれたとか。特に観光客の方は、道がわからなくて、うろうろして右でも左でも歩きます。とにかく、どこかに停めようと思って。現状の駐車場で、間に合うだけはあると思いますが、最盛期になると満杯でバスは周りの狭い道のところへ停めたりしています。</p>	<p>【市長】先ほどご説明させていただきますけれども、バスの場合については市役所の駐車場を使うようにしています。去年からバスの駐車場は、市役所の駐車場を使ってくれるということに、まちづくり会社の方にもお話しして、そのような形を取っています。ですから、先ほど経済部長の方からご説明をさせていただきましたが、それぞれ観光の来た方については、国道38号から東5条に入って南4丁目を通って、マルシェの駐車場に入ってもらおう。バスについては、お客さん降ろした後に、本通りまで出て、市役所の駐車場に停めるというルートにしています。ですから今の質問の話というのは、一番初めの年にはそういう状況があったかもしれませんが、今、バスが停まって困るとか、そういう話は我々の方には来ていないということです。</p>
<p>経済部</p>	<p>元柏木医院とか停めているのは見たことがあります。建物の跡地に停めているのは、何回か見たことがある。</p>	<p>【中心街整備推進課長】元の柏木医院の部分ですが、ふらのまちづくり会社で、その場所を賃貸して借りている状態です。もっぱら職員の駐車場として使っていますが、空いている場合については、フラノマルシェの駐車場で溢れた方に入ってもらおうということも実際行っています。それでも足りない場合については、先ほど説明しましたが、本通に出させていただいて、市役所の駐車場に</p>

<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>かなり前から新聞紙上を賑わしています。主に商工会の方は賛成で来てくれというお話です。農家の人たちについては、結構、庭園が狭いとか、保護者から4月14日、市と意見交換会、それから市の審議会では都市計画の変更を了承したという。先ほどの話の中では、議会は、最初は全部承認しているという、最初のころは議会でも承認したという。</p>	<p>入ってもらうように誘導もしているということです。</p> <p>【市長】基本計画は承認したということです。</p>
<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>分かりました。それで40、36年で老朽化しているということで、確かにこの地区も麓郷・布礼別が保育所も一緒になって行っていますし、それは子どもたちが少ないっていうのもあります。勝手に申せば、市も経済的には保母さんの給料などについても節約できるという。それから、麻町が70数名、中央保育所では110数名で、それで、合併して一つにする。それで、今現状の人数何人ですか。</p>	<p>【こども未来課長】現在、平成24年の4月時点で173名です。</p>
<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>教育、それからそういうこども園について、将来的、教育的、保育的に立派なものができれば、それに越したことはないですが、先ほど何カ所か場所の設定について、この東4条区域に設定している中では狭いという話がありましたよね。だけど、子どもたちが小さなところで交わるから良いのでないだろうかという、大まかに言うとそういう考え方ですよね。</p>	<p>【市長】そんなことはないです。狭いということは全然ないです。先ほどご説明したのは。園庭は狭いと言いましたが、建物は狭いとは一言も言っていません。</p>
<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>全体的に子どもたちの将来を見越したら、環境の良いところで広々と子どもたちを伸び伸びと育てるのが、一つの今いる大人たちの役割でないかと思います。例えば、先ほど言った中央保育所にしても、市の駐車場があります。ああいう面積が確保できる場</p>	<p>【市長】今お話しがあった件ですが、意見として伺っておきたいと思います。</p> <p>今お話しがあった中央保育所のところは、市役所の職員の駐車場です。今職員の中でも、残念ながら市役所の広場のところの駐</p>

所もあるので、わざわざ市街地の真ん中に持っていく必要はないのではないだろうかということ。先ほど、車の問題を指摘したのは、バスはちゃんと指示通り行きますが、その他レンタカー等々は、本当に右往左往している中で、その4条通りでそこで全部規制ができるのかと。その管理会社のガードマンなどがついて、1台1台チェックできるのかと。街の中の今の子どもたちはかなり臨機応変になっていますから、危険を察知することはできますが、親や大人の立場から見ると、その心配も無くさせるのが一つの方法ではないかと。布礼別に土地が山ほどありますけども、ここに来たら一番いいです。最高に。

先ほどバスをそこに停めるといのはどうなるのですか。

経済部・  
保健福祉部

車場を使っているというのが現況です。ですから、市民が来たときに退けなければならないという問題があります。今職員が270～280人いますので、それらの人の車というものを集約しなければならないというのが一つの悩みです。土地利用というのは、次に使う物を前提として、物事というのは進めていかなければならないということです。市役所に来る方が、駐車場に行ったときにすぐ停められるような状態にしなければなりません。市役所に来たときにみんな車が停まっていたら、困る場合があると思います。

【市長】バスが停まるというのは、空いているときには使ってくださいということです。今、行政としてはそういう駐車場の空き地を作っていかなければならない、街の観光振興にも役立つような状況づくりを少しずつでも進めていかなければならないというのがあります。中央保育所の跡地については、今、内部で協議していますが、土地利用については、駐車場も一つの案として考えていくということです。ですから、質問の話からいくと、広々としたところで行うということですが、先ほどから説明していますが、これからのこども園というのは保育所で預かるということだけではないです。教育が入ってきます。教育が入ってくるということは、一つにはいろいろな方の教育を受けることによって、小さいときから順応性ができてきます。私たちはそう思っています。ですから、言われた意見も正しい、正しくないとは言いません。正しいかもしれませぬ。しかし、1人や2人の意見ではなく、もっと多くの意見を聞きながら、行政としては総合判断をしたいということをお話しした後に、考えているということです。この保育園が、幼保一体化のこども園になるということは、

保健福祉部

行政の方でも、いろいろな方向から検討されて、こういう形になっているのだと思いますが、今日に至るまで、先ほど言われた通り、新聞などを見ますと、いろいろな考え方があって、6千人以上の方の署名が集まったとか、いろいろな報道がされています。そんな中で、この布礼別地区については、今は麓郷と一緒にあって子どももお世話になっています。これは将来的に、どうい

これから教育を主体とした形で行うということです。それには、保育所の保育士さんだけでは、行政的にも考えて、教育的なものを合わせると、その他の人の教育も必要だというのが今、考え方としてこれから出てきます。言われた意見というのも間違っていないですが、広々としたところで過ごすというのは、昨日も鳥沼で移住された方が3人いて、かなり強調していました。昨日のお話し聞いていますと、ほとんどその3人でお話されていましたが、同じお話しをしていました。それはそれで良いです。考え方ですから。それを否定するわけにはいかないですから。しかし、行政として行う以上は、それぞれ市民のこれからの成長を促すためには、多くの市民がそれぞれ支え合う、そういう状況で子どもを育てていくことが私は大事だろうと。それからもう一つ、今富良野の状況から言って、子育てというのは0歳から18歳までを子育て期間と考えています。富良野の場合、協会病院に産婦人科医が2名、小児科医が3名います。250床くらいの病院で、これだけ充実している病院は探してみてもないです。安心して産めるといことです。安心して子どもの相談ができるということ。協会病院行って聞いてみてください。どんどんそういう状況が生まれてきています。これは行政と協会病院と沿線を含めて、一生懸命努力した結果が、お医者さんを獲得することができたということ。です。

【市長】今言われたことについては理解します。行政の状況の中に父母会と請願を出されている富良野の未来のこどもを守る会という会があります。これからも最終的に、その会とも懇談を行います。一つには、請願の中身的なものの中に、例えば、交通の問題だとか環境の問題だとか、いろいろ請願の趣旨についてはそういうお話しが書かれていました。ただ行政の言うことは、富良



う形になっていくか今の時点ではわかりませんが、こども園については、今のところ中央・麻町保育所の方たちが、主体になっていると理解しています。その中で、両保育所の人、子ども、父兄の方の意見というのを十分に汲み入れて、方向性を見つけていただきたいと思います。ただこの場所がこうだから、こういう方向性だからということだけでなく、やはりそこへ通う、通わせる子どもや家族の意見が一番大事なかなと思います。その辺を充分加味していただきたいと思います。

野の市街地の活性化の中に、そういう協力的な公共施設が、これからは必要だと考えています。そして環境の問題は、過日のある場所で、これは富良野の未来のこどもを守る会の方だったと思いますが、今、計画を予定している東4条のところは、環境が一酸化炭素で体を壊した人もいるという発言がされました。これは大変な発言です。あそこに住んでいる方々は、そういう発言をされる、あるいは商売をしている方がそういうふうに取り取って見たときに、これは大変な問題です。それで新聞報道もありましたが、環境調査を140万かけて市が実施することにしました。あと1週間もすれば、結論が出ます。そういう住んでいる人の立場ということも、そこで生活し、商売をしている方のことも考えて発言していただかないと、子どものためということではありますが、現実的にそういう状況が実際にあれば良いですが、仮定でものを話すとかが、その方がそういう状況でなったということが事実であるのかということが確定していないでお話しされるということは、やはり慎んでもらう必要性があるのではないかと感じをしています。これは環境の面で、そういう強い要望があり、行政としてもその一酸化炭素がどの程度あるのか、現在使っている、中央・麻町保育所、さらに今予定しています幸町も中心市街地の状況を調査することになっています。その調査結果というのも明確にあと1週間もすれば出てきます。ですから、行政としては、話し合いをする中で、そういう現実というものを自分たちのためだけでなく、やはり富良野市民として生活をしていただく上において、みんなのことも考えながら行っていただく必要性もあるのではないかと感じています。その方は悪気があってそう言っているのではないと理解しますが、公の立場でそういう状況を言われるということは、確信を持って言われると私は感じていませんので、その辺少し、これからいろいろな関係でたくさん出てく

経済部

確かにその通りです。この市街地の活性化というのは、これは富良野の市民として大事なことです。しかし、この布礼別に住んでいる我々としては、今の時点で平成11年ごろから、布礼別のふらの農協支所が無くなり、いろいろな施設が無くなって、保育所も無くなり、子どもたちも少なくなってく。その中で、市街地だけ活性化されても、やはり我々の方にも少し目を向けてほしいと思います。先ほど意見の中にあっただように、これはこの地区の者としてですが、この地域に市有地がたくさんあるんだから、そんなに街の中で保育所のことで広いとか狭いとか危ないとかって、あれされるのでしたら、布礼別までどうぞ来てくださって、我々としてはそういう思いになります。そうすることによって、この布礼別地区も一段と活性されると思います。

と思います。

それから、請願の署名に対して6千人というお話しありましたが、議会に出しているのは、議会で調べてないですから分かりませんが、市に出しているものについては、重複しているものが500以上あります。また、私のところへ相当電話や手紙をいただいています。いろいろな意見があります。あえてここではお話しませんが、いろいろな意見があるということだけ理解をさせていただきたいと思います。

【市長】ここに住んでいる人の状況からいうと、そういう意見が出てきても別に不思議ではないと思っています。これからやはり農業のその対策的なものとして、今何といても人口がどんどん減ってきているという状況ですから、若い人にここに定住していただくような状況づくりをしていかなければならないと思います。それには、今お嫁さんいない方が50歳未満で、大体今年の3月31日で111名の方にお嫁さんがいないです。お婿さんを含めて。大変なことです、富良野にとっては。111名の方が50歳未満でお嫁さん、またはお婿さんがいないということになれば、これは行政としても、一生懸命農業委員会、農協含めて行っていますが、なかなかその自分の将来の配偶者というのは、自らも元気よくやってもらわないと見つからない問題がたくさんあります。今年から少し積極的に、青年塾というのを今年起こしました。これは地元、あるいはこの近辺の方々の若い人で、昨日現在で女性が17名、男性が29名揃いました。これで一応スタートすることになっています。こういう方々が常に交流していただいて、そしてこれは農家ばかりではないですよ、商業もいればその他の職業もあれば、いろいろな業種の方々の青年塾ということですから、そういう意味では、これからのそういう男女の関係につ

総務部

この懇談会は、充分必要な重要なことだというのは理解できませんが、この時期に、この地域でこういう会合を持つのはいかななものかなと思います。今日この時期でなかったらまだ大勢の方が集まったと思います。恐らく今、外へ出たらトラクターのライトが見えると思います。6時半からの集まりですが、そのころでさえまだ、夕食の支度に婦人の方が家に入っていない時間です。早い4月の時期から、この懇談会を計画され、それぞれ何か目的があって始めたと思いますが、逆にこの農村地帯から始めてもらえば、もっと大勢の人が集まれて、もっといろいろな年代層から意見があったのではないかと思います。それがちょっと残念だったと思います。

いても期待が持てる状況が出てくるのかなと思います。特に、農村青年がまだ少ないというお話し聞いていますので、これは強制加入させるわけにもいきませんが、もっと積極的に青年塾には入っていただき、交流を深め、そしてその中からそれぞれお付き合いをしていける状況づくりと婚活という形の中もありますが、そういう活動を通して行うことが一番スムーズに進み、お互いの気持ちができるような状況づくりができると思います。こんな感じで、今年青年塾を立ち上げて、もう1週間もすればスタートするという感じです。そういう意味からいくと、農村にも少しずつ、そういう状況づくりができるような下地を、今年から作っていきたいという感じで今進めていきたいと思います。これは強い決意を持って行わなければ、農家の青年のみなさん方も将来の展望として、考える状況づくりをしていく必要性のある大きな事業の一つという感じを今強く持っていますので、それぞれのみなさま方にも、ご協力をしていただきたいというのが行政の狙いです。

【市長】その件については、深くお詫びを申し上げます。しかし、市長になってから懇談会は、ずっと続けてきています。これは秋に行っています。残念ながら、この布礼別地区については、秋に行っていますが、お集まりいただく数というのは、そんなに多くありませんでした。行政としても、そういう状況の中では一つには連合会長さんを通じて、この間地域の課題について、市の方にそれぞれ要請をいただきました。行政は、今お話しあった件について、春に行うということは決して目的があって行うということではなかったのですが、現実的に議会でそういう請願を受けた経緯もありますし、もう一つは、富良野市の中心市街地の基本計画というのは、回ってみて、知らない方がものすごく多いという現実です。それで、こういう議題で合わせて、この懇談会を今の時期

建設水道部

冬期の除雪の路線について、民家ですが、約400から500mの地点で、住んでいないところを一冬除雪しています。たまたま、その持ち主が除雪をしなかったときに、市に電話を入れて、なぜ除雪をしていないのかという話があったそうです。そして、一人世帯の高齢のご婦人のところには、除雪は行っていないそうです。それでどういう具合にして、除雪路線を決めているのか。住んでいれば別ですけども、この冬は住んでいなかったとのことです。それで確認をします。

もう一つは、この建物のすぐそばに市有林があります。昭和47か48年ころに、元持っていた方が移動して、私がいきましたが、その2、3年後に、学校にということで市が買っています。ところがつい最近まで、市の所有の名目がはっきりしていなかったそうです。それで、先生方代わられています、前の校長先生だと思いますが、一応教育委員会とかいろいろ調べて、市の管財課と話をし、正式に市のものになり、だから学校林と言っているのか、市有林と言っているのか、まったくその宙に浮いた形です。どうしてそう言うかということ、市になってから一回も手入れしていないです。市に売りましたので、市の物だと思っていただけ。その手入れすることなく、ただ植えたままの木がただ伸びて、明るいときに来てほしいですが、みんな倒れています。

に開催させていただいたというのが、本音でございますから、冒頭お話しありました件については、今の時期に行うということについては、あまり好ましい状態ではないと思っています。

【副市長】日程調整の時も、担当部署で（農村地区と市街地区の日程が）逆だったということ、決定した後にそういう話になっていたもので、今のことは市長の方にも伝わっていますので、そういうことでお許しをいただきたいと思います。

【建設水道部長】除雪については、年度のシーズン始めに、除雪計画を立てて公表しています。除雪の基準は人が住んでいるところの除雪です。ですから、逆に言えば人が住まない路線については除雪をしないというのが基本の考え方です。今お話しされた路線がどこのどの場所かっていうことは、ちょっと想像がつかないですが、たまたま住まなくなり、以前は住んでいたという路線であれば、もう従来からずっと除雪路線に入っていて、そこにあるその住宅がたまたま住んでいない、何かの事情で例えば、違う家に住まれているとか、病院に入院されているとか、ちょっとその辺の事情はよくわかりませんが、後ほどその具体的にどこの路線だっているのは、お伺いしたいと思います。基本的には、住まれているところの除雪を行っているということです。

【市長】今質問をしているのは、住んでないところを除雪しているということだから、少なくとも除雪の時期の前に、それぞれ区長さんを通じたりして、その実態というのを部長の方で調べてください。戸数も何百戸もないので、それをしないと、今言ったお話しで、住んでいないところを除雪して、住んでいるところを除雪しないというお話しですから、その路線と状況で、今年の秋の除雪が始まる前に、それぞれ農家の状況というものつかむようにしてください。それでないとその今言った、住んでいないところ

教育委員会

小高い感じになっていますが、手入れをしていないので、木がほとんど無駄になっている。枯れている、倒れている、木がぶつかって擦れて傷んでいるので、市としてどういう扱いにこれからするつもりなのか。それは、今回答は出ないかもしれませんが、後で聞きに行きます。あとで名前言いますから、立会いますから、確認してください。やっぱりちょっと放置し過ぎではないかな。

個人的には中心市街地の活性化計画については、大変良いことだと思いますが、その中のこども園については、多少疑問を持っています。先ほど市長が話された、お年寄りとの交流や地域との交流、そういったものが子どもたちの教育にとっては必要だということをお話されていました。これは余談というか、先日トラクターに乗って道路を走っていたところ、近所の子どもが片手にビニールをぶらさげて、何を持っているのかなとちょっと見ていたところ、道路の脇に落ちていたゴミを拾って、学校の帰り道だと思いますが歩いていました。恐らくそのゴミは大人が捨てた物だと想像しますが、その姿を見て一つ思い出したことがありました。数年前ですが、街の方の中学校の前を通ったときに、生徒が恐らく飴かガムの包み紙を、口に入れて、包み紙をポイポイ捨てながら歩いていた。その後ろを、恐らく先生だと思いますが、ネクタイを締め、背広を着た方が後ろをついてそのゴミを拾っていた姿を見たことがあります。先ほど子どもたちにとっては、多くの人に関わりが必要であるということをお話されていましたが、先ほど言ったことから言ったら、田舎に住んでいるそんなに人と街の子と比べたら関わりの少ない子どもたちが、しっかりとしなければならぬこと、恐らく学校で言われたかもしれない、親から言われているのかもしれませんが、そういう姿を見せていたという

を除雪し、住んでいるところを除雪しないというような状況というのが現実的にあるということですから、これはやはり無くして、そういう実態に応じた除雪の体制というのは作るべきだと思います。

【副市長】先ほどの関係で、市有林かどうかっていうところについてはそのお話しをさせていただき、除雪の件についても、今市長が話したような形で対応をしたいと思います。

【市長】今、富良野のへき地的な状況というのは布礼別・麓郷を含めて、東山の一部があります。こういったところの地域の状況というのは、それぞれの学校の先生の努力と地域の努力によって、学力の向上も段々伸びてきています。これはやはり教育が主体となって行っていると私たちは考えています。人数が多いからということではなく、人数が多い少ないに関わらず、その任に当たる先生方の努力と、家族の支援的なものがあって、そういう人間形成ができる状況ではないかと思っています。特に布礼別の小中学校というのは、非常に観光のトイレ掃除から始まって、長年の伝統で行っていただいています。これは、他の町村にも誇れる状況づくりだと見ています。ですから、へき地であっても、それだけの教育ができる、勉強ばかりでなく、社会生活における一つの基礎づくりが小学校の生徒から行われているということについては、これはこの地域においては、富良野においても敬意を表する状況づくりだと思います。これはもう長年、それぞれの住んでいる方の努力の賜物であると認識をしています。一方、街の中はどうかという状況であります。だんだん変わってきました。例えば、今西中学校でいじめの形はほとんどなくなってきました。これは生徒が立ち上がったのです。先生でなく、生徒自身が立ち上がり無くしていこうと。今、それぞれ西中の生徒はバッジをつけています。

ことから言えば、この多くの人たちの関わりが必要だということが必ず必要なかどうか。この街の中に特に必要があるのかと思います。そういうことから市長の田舎のへき地と言われるところの教育環境について、どんなお考えを持っているのかお尋ねしたいのですが。

それは、いじめの生徒を無くすための立ち上がりでできたものです。これは、大変な反響を今呼んでいます。それぞれの学校にも大きな影響を与えています。ですから、今ご質問のあった、へき地であっても、市内であっても、そういう一つのきっかけなり、生徒自身の自覚差というものが出てきて、社会の生活に順応できる能力が育ってきていると感じています。富良野全体の状況をみな同じにするということにはなかなか難しいわけですが、少なくともそういう状況づくりを地域あげて行っていくような、生徒が少なければ少ないほど、そういう状況づくりというのは必要ではないかと考えています。今、小学校を例にあげれば、それぞれアドバイザーの職員も置いていますし、そういう中で地域の全体の中の一つの間人づくりとか、形を作っていくというのが現状です。私の意見ということですから、へき地においても、それから市街においても、学力においても、今、全国の標準を上回ったということですから、これはそういう努力を地域においても、市街においてもされているということは、学校の先生をはじめ、本人の努力、父母の努力も重なって、そういう状況づくりができたのではないかと今考えているところです。

教育委員会

市長が言われるのは、街の子どもたちでも、こういったへき地の子どもたちでも、同じような教育を受けるべきだと、受けて当然だという考えでよろしいですか。

【市長】はい、そうです。

保健福祉部

保育所のことですが、活性化には賛成ですが、中にその保育所を持っていくっていうのは基本的に反対です。意見として反対の意見です。先ほど市長が0歳から18歳までが教育だということをお話しされましたが、その活性化事業にのる新しい保育所の子どもたちだけではありませんよね。これからの目標として。へき

【市長】へき地は、0歳は預かれないことになっています。

	<p>地も、それこそ山部や東山、あおぞら保育所の全部がそうだと いうことで、考えて良いでしょうか。これからその街中の保育所だ けでなく、その周りのへき地保育所といわれている保育所もこれ から充実、拡充の方向という方で考えて良いでしょうか。街中の 認可保育所は0歳から。でもへき地はその2歳、3歳という終わ りがあると。</p>	
<p>保健福祉部</p>	<p>その法律を市として破るといふか、乗り越える格好にはならな いのでしょうか。</p>	<p>【市長】現実的な問題として、例えば、0歳だったら富良野の方 に来ていただくという形にならざるを得ないということです。現 状の中では。へき地で0歳を預かることは、これは現状ではでき ないと申し上げておきます。</p>
<p>保健福祉部</p>	<p>周りの農家だとか、市街地でないところに定住させるとか若い 衆をそこに住まわすというのと矛盾すると思いますが。農家を盛 り上げるだとか、基幹産業は農業ですよね。新規就農とか何とか かっていう話が盛り上がっていますけれども、保育だとか教育だ とかが街中と差をつけられるっていうことは、いかがなものかと思 います。外で新規就農者2人できて、赤ちゃんがいるから、本当 は保育所がほしいはずですが。</p>	<p>【市長】原則的に、それは行政としては平等で行わなければなり ません。しかし、預けることができない場所に預けるということ はできません。ですから、富良野の0歳から預かっている認可 の保育所の方に来ていただくという形で平等さを取るというこ とです。それには交通費がかかる、それについては別の問題で考 えなければならないということです。ですから今、ここに0歳児 を預けるようなことが行ふべきだという、当然だというお話しで すが、残念ながら、国でそういう基準を設けていないですから、 行政が独自で行えないかという今のお話しですが、それは事故の 問題、設備の問題、こういったことを考えると、富良野の方に来 ていただくというのが当然と考えているところです。それは大変 なことです。事故起きたら、それだけの責任を負わなければなら ないという問題がありますから、その点は少しご理解をいただき たいという感じです。</p>